

イエス様のまなざし

信徒代表 坂本規子

昨年、評議会議長をお引き受けしてから早や一年過ぎようとしています。今年の総会も無事に終え、教会の典礼暦での新しい年が始まりました。一つ一つの教会の働き、出来事の中に見えざる神の導き、ご計画があり、また皆様の温かい励ましと助けがあって今日まで続けられていると心から感謝しております。

さて、もう 10 年以上も前の話になりますが、日本の女子高生の間で「W. W. J. D」と書かれたリストバンドをするのが流行っていたころがありました。女子高生たちはこれが何の意味か解らずにおしゃれ感覚でつけていたようですが、これは「What would Jesus do?」の略でした。「イエスさまだったらどうされる？」と訳したらいいのでしょうか。最近、家の中を片付けているとき、誰かから頂いた、このリストバンドを見つけ懐かしく思い出しました。そして私は何か問題にぶつかったとき、そのような問いかけをしながら生きていけるだろうかと考えさせられました。私たちの周りにはいろいろな悩みを抱え苦しんでいる人、病気の人、様々な事情を抱えた人がいます。そのような人たちに対して、よきサマリア人の話に出てくる祭司のように見て見ぬふりをしていないだろうか？イエス様のまなざしでみているだろうか？と考えさせられました。

イエス様はいつも愛をもって、苦しみ悩んでいる人に救いの手を差し伸べ、年齢の違い、国籍の違い、男女の違い、貧しい人にも金持ちの人にも 罪ある人、罪のない人にも同じ愛のまなざしを注がれています。イエス様のまなざしは裁きのまなざしではなく私たちに希望を与え、立ち上がらせてくれるまなざしです。時には私たちに試練を与えられ、それによって成長していく私たちを忍耐して、温かく見守って下さっているまなざしかもしれません。

イエス様のまなざしを通してみていくには、私たちはイエス様に似るものとならなければなりません。難しいことですが、ミサにあずかること、聖書のみ言葉を学ぶことにより、また祈りの中で、少しでもイエス様のまなざしをとおして物事を考えていけると、このことを通して考えることができました。

今年はNHKの大河ドラマ「黒田官兵衛」が放映されているため、また高山右近列福を願う働きのため巡礼で姫路教会を訪れる方が増えています。私たちも高山右近の足跡

を訪ねる巡礼をしたいと計画しています。先人の信仰に学び、そして新しい福音宣教を学び、それを実行していく教会に少しでもお役に立てたらと願っています。

最後に最近、教会の方から頂いたカードの言葉を紹介します。

「キリストは目に見えない神の姿であり、
わたしたちは目に見えないキリストの姿である。」